

帯笑園保存会 会報

発行元 保存会事務局
 発行責任者 庄司 一幸
 2013年9月5日
 No. 004

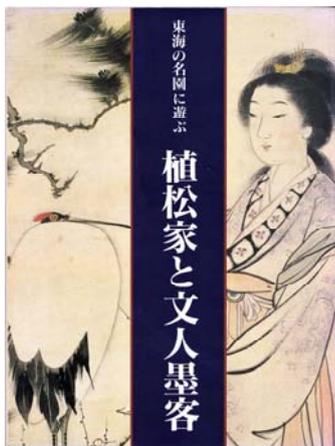
保存会発足十年の節目の年に

帯笑園保存会は平成十五年十月に設立されましたから、今年の秋には発足以来ちょうど十年となり、今年はまだに節目の年に当ります。この節目にあたり、保存会のこれまでの足跡をなぞってみることにしました。

帯笑園といえば、原地区のご高齢の方々には小学校の遠足で見学に訪れたことがある思い出の場所ではありませんでしたが、戦後のある時期からは一般には公開されなかったこともあり、帯笑園の名すら知らない人がほとんどでした。

そういう中でも植松家の所蔵する貴重な文書についての調査が沼津市史編集委員会の手で行われ、平成七年に沼津市史叢書三『原宿植松家 日記・見聞雑記』が翻刻出版されることにより、植松家と帯笑園のことが一般に知られるようになります。

また、同年二月から四月にかけて、三島市の佐野美術館で『東海の名園に遊ぶ―植松家と文人墨客』展が開催され、東京国立博物館に



寄贈された植松家の旧蔵品である池大雅や円山応挙とその一門の絵画などの美術品が展示されました。この展覧会の開催により植松家と帯笑園のことを知った人も多かつたようです。

この展覧会を訪れた千葉大学園芸学部の小野佐和子先生は、帯笑園に強い関心を抱き、すぐに帯笑園についての調査を開始しました。翌八年には「駿河原宿植松家の帯笑園」という研究論文を発表し、平成九年には『千葉大園学報』に「駿河原宿帯笑園の訪問者についてⅠ―東海道を往来する人々―」、「同Ⅱ・宿内とその周辺からの訪問者―」の二編の論文を発表されています。さらに、「帯笑園における高家大名等の訪問について」、「帯笑園における鉢物献上について」の論文を『千葉大園学報』に発表されました。

講演会開催を機に「保存会」設立の機運高まる

これらの論文から小野先生が帯笑園について研究されていることを知った原駅前密集市街地整備事業のコンサルタントを務めていた金子督氏が、帯笑園の保存運動の進め方を模索していた原地区連合自治会の庄司一幸会長、植松善夫先生、齋藤好行、大場豊重氏等に小野先生を紹介したことが契機となり、平成十三年十二月、連合自治会、原町商工会、原地区コミュニティ推進協議会の主催で小野先生を講師に招聘して「再発見 原宿と笑帯園」の講演会が開催されました。

この講演会開催を機に帯笑園についての理解が広まり、帯笑園の保存整備を目的とす



る会の設立の機運が高まり、平成十五年十月、植松善夫先生を会長とする「帯笑園保存会」が発足しました。

翌十六年に開催された浜名湖花博の広いスペースに帯笑園が展示紹介され、一気に認識が広まったのを受け、保存会では市に帯笑園の保存を要望する署名運動を行い、五千人近い賛同を得て署名簿を斎藤衛市長に提出しましたが、残念ながら実現には至りませんでした。

保存会では、多くの方々からなお一層のご理解を得られるよう、毎年四月には日本桜草の観賞とお琴の演奏会を開催するとともに、毎月一回のペースで見学会を実施するなどして来ました。静岡新聞、沼津朝日新聞などにも帯笑園に関する特集記事が掲載され、関心を集めました。

また、平成十七年四月には、市立図書館で開催した「原宿植松家帯笑園(所蔵展)」と、常葉学園大学日比野秀男教授の「原宿植松本家(帯笑園)の文化・美術」と題した講演により、多くの市民の皆さんに帯笑園についての理解を広めることができました。

こうした植松善夫会長以下歴代の役員やご支援をいただいた多くの皆さんのご尽力により、紆余曲折を経ながらも平成二十一年度には、保存会が目的とした帯笑園の土地の一部について、沼津市による取得が実現しました。

その後、二十二年度に、帯笑園の敷地の一部において市により暫定的な整備が行われました。施設の整備は園路や花壇、鉢物の展示棚などに限られ、帯笑園の本格的な整備はこれからというところで



すが、平成二十三年度の桜草観賞会とお琴の演奏会は新しく整備された園庭で行うことができました。

市教委・文化財センターでは、帯笑園の植物や庭園に付属する構造物、植松家に残る貴重な文物について詳しく調査し、文化財保護法に規定する登録文化財として国の原簿に登録が行われるよう手続きを進めた結果、二十四年九月に県内では初めて記念物(名勝)として登録がなされました。学術的意義が明確となった登録の意義は大きく、新聞やテレビでも大々的に取り上げられました。

保存会ではこれを機会に帯笑園についての理解が一層広がることを願って、国立歴史民俗博物館名誉教授高橋敏先生はじめ五人の研究者を講師に原地区センターで開催する連続講座と、市立図書館で開催する「原宿と帯笑園展」を記念事業として実施しました。市教委では、この展覧会初日に、小野佐和子先生を講師に招聘して「江戸時代の園芸趣味と帯笑園」の演題で講演会を開催しました。

帯笑園の名にふさわしい整備が望まれる

今後は、用地取得の残る植松氏の住宅や都市計画画道路原青野線の拡幅部分を含む敷地全体の整備に関心が寄せられています。

保存会では、原地区連合自治会・同コミュニティ推進委員会とともに、登録文化財「帯笑園」にふさわしい施設と展示設備や来園者、原・浮島地区を訪れる観光客のための便益施設の整備などを栗原市長に対して要望しましたが、実現の見通しは立っておりません。保存会の発足十年の節目に当たる今年には、今後の帯笑園の顕彰と利活用をにらんだ保存・整備のあり方について考え合う大事な時期となります。この機会を逃がせば、原・浮島地区の宝、沼津の宝であるべき帯笑園は、永遠にその輝きを失ってしまうかも知れません。それほど重要な時期に差し掛かっていると云えます。

これまで地道に取り組んで来た帯笑園保存会の活動ですが、さらなる飛躍が求められています。会員の皆さんのなお一層のご支援とご協力をお願いいたします。

植松善夫先生のご労苦に感謝し

後任の会長に庄司一幸さん、 副会長に大場豊重さんを選任

帯笑園保存会総会で新役員体制決まる

保存会発足以来、長年に亘り会務を指導して来られた植松善夫会長の後任の選考に時間を要し開催が遅れていた保存会総会は、七月三十一日午後七時から原地区センターで開催されました。

総会では、新会長に副会長の庄司一幸さん、空席になる副会長には顧問を務めていた大場豊重さんが選任され、新たな役員体制の下で新年度事業が取り組まれることが決まりました。また、発足以来会務のほとんどすべてを処理してくれていた齋藤好行副会長の負担を軽減するため、三人の副会長が役割りを分担するとともに、幹事の虻川時江さんが会計を担当することになりました。



総会で挨拶する勝又恵三 市教委 文化振興課長、来賓として大橋繁連合自治会長、鈴木邦親会長代行、植松靖博氏が出席

新年度では、会員数の減少に伴い財政基盤が弱まっている実情から、**会員の大幅な増加**を目指すこととしました。桜草観賞会や見学会の折に入会のご案内をしたり、原地区以外の方々にも積極的に勧誘するなどしてゆくことにしています。(入会申込書は地区センターにあります。) また、そのためには、「**帯笑園保存会会報**」を再刊して会の活動状況をお伝えすることが欠かせないと考え、最低でも年一回は発行し、会員の皆さんとのつ

ながりの場づくりをしていきたいと思っております。御目を通していただける内容にしてゆくよう努めますので、皆さんのご意見や投稿をお寄せくださるようお願いいたします。

なお、従来から年会費は原地区センターで納めていただいておりますが、原地区以外の方からは納めにくいという声がありましたので、この度、沼津西郵便局に**振替口座を新設**することにしました。

原・浮島地区の方には従来どおり原地区センターで納めていただきたく、振替の場合も、郵便局のATMで納めていただければ、会の手数料負担が安くなりますので、そのようにお願いいたします。

正念場を迎えた帯笑園保存運動

帯笑園保存会会長 庄司一幸

この度、平成二十五年度の帯笑園保存会総会において会長に選任されました。小学生の頃に遠足で訪ねたことのある帯笑園でしたが、久しく人々の記憶から薄れていました。しかし、原の歴史や文化を語る上でなくてはならない存在であることに気付いた人々の手で十年程前から保存運動が続けられています。

その運動が実り、現在、帯笑園の敷地のおよそ半分を市が取得し、現在、一部を暫定的に公開しています。全面公開は平成二十八年度となる予定です。そういう中で、昨年九月には、国の登録文化財となり、帯笑園の大切さが改めて認識されました。

本年度の保存会の活動方針は、全面公開に向けて帯笑園をどのようなかたちで整備し、保存あるいは復元し、活用するのかを市に提案していくこととしております。有識者の御意見はもとより地域の皆様のご意見をいただき「原の帯笑園」はかくあるべきだという案を創りたいと思っております。

つきましては、会員の皆様には旧にも倍してのご支援、ご指導をお願いし、就任の挨拶とさせていただきます。

帯笑園にふさわしい施設整備と 利活用の構想を描く検討会を開催

保存会の運動が実を結んで、平成二十一年度には園庭部分の用地取得が市により行われ、翌二十二年度には園路や花壇などが整備されています。今後は、植松氏が現在居住されている部分や東側に計画されている道路の拡張部分の用地取得が予定されています。そして、これらの用地取得が行われれば、いよいよ帯笑園の本格的な整備が行われることが期待されます。

そこで、保存会では、昨年夏、沼津市に、登録文化財として国から学術的な意義付けがなされ、地域の貴重な歴史と文化を伝える帯笑園にふさわしい施設整備を要望しましたが、市からは望ましい回答をいただくことができませんでした。このまま公園や道路の用地取得が行われるのであれば、帯笑園の顕彰にも地域振興にもつながらないことは明らかです。

保存会が独自に構想検討会を開催

そこで、保存会では帯笑園にふさわしい施設整備と整備後の利活用のあり方について、研究者や学識経験者、専門家のご意見を聞き、帯笑園の望ましい将来構想をとりまとめることにしました。

検討会の委員を帯笑園に関する造詣の深い、佐野美術館館長渡辺妙子氏、前千葉大学園芸学部教授小野佐和子氏、常葉学園大学教授日比野秀男氏、都市計画コンサルタント金子督氏、国立歴史民俗博物館准教授樋口雄彦氏（現在、要請中）、郷土史研究家望月宏充氏に委嘱し、年内を目的に検討を行っていただくことにしました。

検討会の事務局は、保存会役員が務めることにしています。

「わたしの望む帯笑園の整備と利活用」
皆さんのご意見・ご要望をお聞かせください

保存会では、検討会の開催にあわせ、会員、会員以外の一般の方々から「わたしの望む帯笑園の整備と利活用」についてのご意見・要望をお聞かせいただくこととしました。

皆さんからのご意見・要望は、次の要領で事務局までお届けいただきたく、多くの方々からの提案をお待ち申し上げます。
どうかよろしくお願いいたします。

原稿

A4の用紙に一、六〇〇字以内で、箇条書きにして分かりやすく書いてください。（ワードで、横書きに書いたデータをメールに添付して送りいただければ大変助かります。）

提出方法

電子メール、ファックス、郵送 又は直接ご持参ください。

提出先

〒四一〇—〇三二 沼津市原一二〇〇—三
沼津市原地区センター内 帯笑園保存会 宛
ファックス 〇五五—九六六—〇〇八四

締切

メールアドレス haracommunity@thn.ne.jp
平成二十五年九月三十日